
フラッシュ・ビート・シャット・オフ

ニコネコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フラッシュ・ビート・シャット・オフ

【ZINE】

Z1616E

【作者名】

二ノ木ネコ

【あらすじ】

試合中、世界から切り離された経験が無いだろうか。それほどどんなスポーツでも関係ない。この世には自分だけ。そう思つときが、俺はある。

14点ビハイングの第3クオーター、4thダウン、残り8ヤード。

止まっていたストップウォッチの時間がまた進みだす、その時を待つ。

静かな緊張。

周囲の選手の息遣いまで聞こえてきやうな

「ハット！」

鋭い合図が飛ぶ。

走り出した。

その瞬間、周りの世界と俺の空間は切り離された。

ヘルメットの中からの狭い視界、茶色の弾丸を捉えた。

「ぬうすけ、取れっ！」

そう言われた気がする。実際、試合中にそんな声をかける余裕は無い。

先輩の期待を一身に背負い、ボールがもの凄いスピードで飛んでくる。

激しい回転が加えられているのに、それはとても美しい軌跡だ、といつも思つ。

もつれそうになる足元に力を入れ加速する。

勝負は一瞬。コノマ一秒、きらめく刹那。それで全ては決まる。

走る足に絡みつく泥を思考から追い出し、掲げる両手に神経を集中

する。指の一本にまで心が澄み渡るよつに、空に向かつて手を伸ばす。

ミサイルのように一直線に向かつてくるボールを両手で包んだ。この瞬間が大切だ。弾丸のように飛び込んでくるボール。見た目よりもいつもそれは重く、激しく、手の中で外に出ようともがき、暴れまわる。

その抵抗を抑えきれずに、ボールは奇妙に弾けて俺の手をすり抜け、肩を飛び越えて泥の地面の中に跳ねた。

走っている勢いを止められず、よろけた俺はそのまま上半身から地面に衝突する。

「ああつ！」

フィールドの外で、様々な声援の落胆の叫び声が上がったのを聞いた。

一気に世界が戻ってきた。

審判の鋭いホイッスル、這いつくばつた地面の匂い、鈍い体の痛み。自分の呼吸音がヘルメットの中で増幅され、はあはあ、とはつきり聞こえている。

顔に跳ねた泥が狭い視界をさらに分割する。

全身を包む氣だるさを押しのけて体を起こした。

「ほい」

目の前に手が差し出された。見上げると、先輩が仏頂面で立っていた。

る。

「すみません」

そう言いながら俺はその手を取り、立ち上がった。
謝っているのではない。「済みません」と言つたつもりだった。

「次、取れよ」

先輩はそつけなくそのままと、メンバーの集まる方へと走つていった。

「はい」

俺も向かう。半ば水たまりのようになつた泥の地面を走り、メンバーのもとへ駆け出す。

試合は続いているのだ。

「ハドル！」

先輩が叫ぶと、メンバーはそれに応じて集合する。

次に勝つために。

ただ勝つために。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1616e/>

フラッシュ・ビート・シャット・オフ

2010年12月10日02時38分発行